

平成24年度「福井新々元気宣言」推進に係る施策の実施結果 (平成25年3月末現在)

「福井新々元気宣言」の4つのビジョンを着実に実現していくため、平成24年4月に掲げた施策・事業の実施結果について、次のとおり報告します。

平成25年3月

教育長 林 雅 則

I 総括

1 福井型18年教育の推進

- ・10月に「幼児教育支援プログラム」を策定、11月には「幼児教育支援センター」を開設し、幼稚園・保育所・小学校の連携強化のための合同研修や、家庭の幼児教育力を高める講座などを開始しました。また、小学校と保育所・幼稚園の接続カリキュラムづくりにも着手しました。
- ・5月に「学力向上センター」を開設し、「算数Web」、「理科観察・実験レシピ集」、「個別大学入試対策学習アドバイス集」等の教材開発を進めるとともに、「保護者のための教育力セミナー」を開催するなど、小中高の児童生徒の学力向上策を拡充しました。
- ・数多くの公開授業や授業研究会の開催、「教育情報フォーラム」における学習指導プランの充実、「学校全体の教育力向上に関する指針」に基づく校内授業研究の推進など、自ら学び、工夫する教員を後押しして、教員の指導力向上を図りました。
- ・小・中・高校の節目の部分のつながりを強化するため、小・中・高校の教員が、お互いの指導法の研究や指導の系統性を強める「中高授業接続ガイド」の作成を行い、教育の一貫性を高める対策を進めました。
- ・県立高等学校改革の一環として、多様な教育機会を創出し、福井県全体の教育力をさらに向上させる中高一貫教育校（併設型）の設置方針を策定しました。

2 子どもたちの希望に応える高校教育の推進

- ・7月に全県立高校において授業・学習状況調査を実施し、調査結果を踏まえ、授業力のある教員や管理職が指導・助言し、生徒の理解度を高めることのできる授業改善を進めました。
- ・職業系高校においては、地元企業の代表等から授業に対する助言をいただき、産業界の意見を授業やカリキュラムに反映させたほか、生徒への民間の技術者による技術実習指導や教員の企業等での技術研修など、職業教育の充実を図りました。

3 聞ける話せる英語力の伸長

- ・ALTとのランチタイムや洋楽放送を聞く「イングリッシュ・シャワー」のほか、米国での海外語学研修、2泊3日の英語キャンプなど、授業以外にも英語に触れる機会を増やすことにより、生徒の英語力向上を図りました。
- ・英語指導改善拠点校を中心とした公開授業等の実施やNHKと協働した教材の作成、教員の米国への長期研修派遣など、教員の英語指導力の向上に努めました。

4 国体に向けた着実な競技力の向上

- ・平成30年の第73回国民体育大会において、活躍が期待される中学・高校生等634名を「チームふくい」の強化選手に認定したほか、合宿や遠征試合、競技備品の整備などへの支援を行いました。
- ・重点強化校、強化推進校の指定と併せて、優秀な指導者を養成・確保するため、中央競技団体からの事前情報収集に努めました。
- ・国体の開催と将来の利活用を考慮し、ホッケー場の人工芝の張替、クレー射撃場改修工事の実施設計等を行いました。また、福井運動公園については、具体的な整備計画を作成し、基本設計に着手しました。

II 「政策合意」項目にかかる結果について

- ・別紙「平成24年度 施策項目にかかる実施結果報告（教育庁）」のとおり

平成24年度 施策項目にかかる実施結果報告(教育庁)

(平成25年3月末現在)

【実施結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要があるもの)

役職	教育長	氏名	林 雅則
項 目		実 施 結 果	
<p>1 日本のモデル「福井の教育」 ◇ 日本の教育センター福井 ・教育関係者が福井に学びにくる仕組みづくり</p> <p>福井県学力向上センターにおいて、自治体の教育関係者に加えて各種広報媒体などに福井の教育をPRし、学校現場等への視察を働きかけます。</p> <p>また、県外からの教育視察の受入れや授業名人の県外教育現場への派遣などを行う窓口を設置するほか、DVDを夏までに制作して福井の教育を分かりやすく紹介するなど、福井を全国の教育モデルとして発信します。</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>5月に「福井県学力向上センター」を開設しました。 1都2府1道41県から1,286名の教育関係者が来県し、県や市町教育委員会での教育行政に関する聴取や学校での授業・校内研修の参観、参加を通して、本県教育の視察が行われました。</p> <p>海外5カ国から学校等の視察に訪れた95名を含め、約1,381名の教育関係者を受け入れています。</p> <p>また、7月に制作した教育DVDを活用し、本県で開催された教育関係の全国大会等や視察等において本県の教育を紹介したほか、教育庁職員が講師やパネリストとして3県に向き、約300名を対象に福井県の教育を紹介しました。</p>	
<p>〔 県外からの学校視察受入人数 (教育関係者) 1,300名 (平成23年度 1,172名) 〕</p>		<p>〔 県外からの学校視察受入人数 (教育関係者) 1,381名 〕</p>	
<p>・不登校を早期に解消</p> <p>「福井県不登校対策指針」に基づき、小・中学校において不登校の未然防止・初期対応・自立支援の3つの柱からなる対策をさらに進めます。特に、小学校における不登校対策について、共通指導項目を明らかにすることで指導の標準化を図り、中学校進学時の生徒の戸惑い等をなくします。</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>不登校等のない学校環境の整備に向け、教員による支援、助言の充実を図るため、小・中学校教頭を対象にして7月、1月に不登校対策研修会を開催し、小学校間および小中学校間の連携の強化を進めました。</p> <p>全国的ないじめや体罰に対する意識の高まりを受け、8月には教育関係者・PTA等が参加した「いじめ等問題行動をなくす」福井県全体会議を開催し、いじめ等の問題行動の未然防止や、早期解決等に一体となって取り組んでいくことを確認しました。</p> <p>9月には「いじめ問題対応の手引き」の改訂し、校長のリーダーシップによる校内体制の整備を図り、10月に開催した学校、教育委員会、PTA関係者を対象の研修会を受けて、いじめ等の早期発見・早期解決や、学校・家庭における居場所づくりをさらに進めました。また、2月には体罰の防止・根絶のための研修会を開催しました。</p> <p>さらに児童生徒に対し、学校では話せない心の悩みの解消を図るため、「24時間電話相談」窓口の周知に努めました。</p>	
<p>〔 不登校者数 小学校120名、中学校560名 (平成23年度 小学校130名、中学校582名) 〕</p>		<p>〔 不登校者数 小学校107名 中学校536名 〕</p>	

役職	教育長	氏名	林 雅則
項目		実施結果	
<p>・発達障害児教育の推進【部局連携】</p> <p>発達障害児教育推進チームを設置し、児童・生徒一人ひとりの障害や特性に応じ、就学前から卒業まで一貫した指導・支援を行う教育体制を作ることと合わせて、支援が円滑に行われるための移行支援ガイドラインを作成します。</p> <p>また、指導・支援の実践事例（30事例）をもとに、発達障害児指導の手引きを作成し、県民、保護者、関係者向けに研修会や情報提供を行います。</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>教育・福祉・労働の関係部局で構成する発達障害児教育推進チームにおいて、小浜市などのモデル地区と連携し、現地での指導・支援を行いました。</p> <p>保護者向けの研修会を5月に嶺北（1回）と嶺南（2回）で開催したほか、5歳児の保護者向けに、障害を早期に認識し、適切に対応することの必要性を伝えるパンフレットを作成し、12月に配布しました。</p> <p>就学前から就労段階に至るまでの「移行支援ガイドライン」を3月に発行するとともに、収集した事例に対し考察、指導のポイントを加えた「発達障害児指導の手引き」を3月に作成・配布しました。</p>	
<p>・奥越地区特別支援学校（仮称）の整備</p> <p>奥越地区特別支援学校（仮称）については、平成25年4月の開校に向けて、校舎等の施設整備や保護者説明会の開催、教育課程の策定等の準備を進めます。</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>5月から大野市、勝山市の教育・福祉関係機関等に対する学校概要や開校スケジュールの説明を行うとともに、保護者等に対する説明会（33回）を実施しました。</p> <p>施設については、12月に本館、1月に体育館などすべての引渡しを受け、整備を完了しました。</p> <p>2月から備品等の納入・設置を始め、25年4月開校に向けた準備を進めました。</p> <p>なお、学識者、保護者代表および教育機関で構成する開校準備委員会（5回）を開催し、教育課程、学校行事等を協議・決定しました。</p> <p>〔（決定事項） 校章、県内の特別支援学校で初となる食品加工室を使用したパンなどの食品製造や販売等の学習、スクールバスの運行経路（大野市2路線と勝山市1路線）〕</p>	
<p>・青少年体験活動プログラムの提供および施設整備基本計画の策定</p> <p>自然や歴史、文化、産業などの地域資源を活用した青少年体験活動プログラムを開発します。</p> <p>併せて、小中学生の野外体験や長期集団宿泊を中心とした体験活動施設として、芦原青年の家の施設整備の基本計画を策定します。</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>青少年体験活動プログラムについて、学校・市町教育委員会、PTA等との意見交換を行いながら、各施設周辺の自然や産業など地域資源を活用した具体的な体験メニューや、教科学習への活用方法などに加え、里地里山体験学習も組み入れたプログラム集（16事例）を作成し、職員が各小学校（150校）に出向いて説明を行い、長期の集団宿泊学習等での活用を働きかけました。</p> <p>また、基本計画策定委員会（3回）を開催し、芦原青年の家について、北潟湖や坂井北部丘陵地などの周辺の自然環境を活かすとともに、あわら温泉宿泊者の利用にも配慮し、幅広い体験活動ができる施設とするための基本計画を策定しました。</p>	

役職	教育長	氏名	林 雅則
項目		実施結果	
<p>◇ 夢と希望を育てる学校 ・家庭とともに進める幼児教育の充実【部局連携】</p> <p>「幼児教育支援プログラム」を今秋に策定し、基本的な生活習慣や規範意識などを学ぶ幼児教育の意義を明らかにして、これに基づく支援の充実を図ります。</p> <p>小学校と保育所、幼稚園等に対し、幼児の就学前後のカリキュラム接続の仕組みや就学時期に子どもたちが到達すべき水準を示すため、「スタート・アプローチカリキュラム指針」を策定し、幼児教育における目標を共有化します。</p> <p>家庭教育のステージアップのためのガイダンスや保・幼研修の体系化による人材力強化など、福井型幼児教育推進の拠点として「幼児教育支援センター」を設置し、子どもたちの健やかな育ちを支える体制を整えます。</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>保育所・幼稚園・小学校や家庭と連携し、基本的な生活習慣や規範意識などを学ぶ幼児教育の意義を明らかにするため、幼児教育力向上会議（2回）を開催し、10月に「幼児教育支援プログラム」を策定し、この支援拠点として11月に「福井県幼児教育支援センター」を開設しました。</p> <p>また、保育所・幼稚園と小学校の円滑な接続を推進するため、「福井県スタート・アプローチカリキュラム指針」を作成し、地域の実情に対応した具体的カリキュラムづくりに向け、県内5小学校区をモデルに指定し、実証を開始しました。</p> <p>「幼児教育センター」において、保育士・幼稚園教諭・小学校教諭を対象とした「小学校1年生の教科書を学ぶ会（6回）」や「幼児教育講座（8回）」を開催するほか、保護者を対象とした「家庭教育講座（9回）」を開催するとともに、嶺南デー（月1回以上）を設け、嶺南地域における研修受講を容易にするなど、幼児教育力の向上に努めました。</p> <p>その他、市町3歳児健診事業や子育て支援センター、公民館に出かけ、保護者対象の研修会を開催し、未就園児の保護者への家庭教育の意識醸成に努めました。</p>	
<p>・確かな学力の定着</p> <p>小学2年生への35人学級の導入など、本県が独自に進めてきた少人数教育をさらに充実させるとともに、中学校の英語、数学における習熟度に応じた指導を通じ、個に応じた確かな学力を定着させて高校での学習につなげていきます。</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>小学校2年生の35人学級を実施しました。また、今年度から新たに通常学級に在籍している特別な教育的支援が必要な児童生徒を支援する非常勤講師を、小学校に25人、中学校に6人を配置し、本県独自に進めてきた少人数教育を充実させました。</p> <p>さらに、14校において中学校の英語、数学における習熟度に応じた指導を行い、生徒の基礎学力を向上させるなど、個に応じた確かな学力を定着させました。</p>	
<p>・県立高校の再編整備</p> <p>若狭地区については平成25年度、坂井地区については平成26年度の再編に向けて、カリキュラム編成や必要な施設・設備の整備等を進めます。</p> <p>また、今後の再編や普通科高校、中高一貫教育のあり方について検討を行います。</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>若狭地区については、若狭高校および若狭東高校において、新たなカリキュラムに必要な施設・設備の整備を行うとともに、中学生や地域住民に対し積極的に周知し、再編実施に向けた準備を着実に進めました。</p> <p>坂井地区については、坂井総合産業高校（仮称）の開校に向け、地元企業や研究機関等の意見（31社訪問）を踏まえた新たな職業教育の検討を行い、必要な施設・設備の整備等を含めた全体計画を策定しました。</p> <p>また、その他の地区の再編については、生徒数の動向等を踏まえ慎重に検討を進めるとともに、高校教育改革の一環として、多様な教育機会の創出に向け、平成27年4月を目途に、高志高校に県立中学校を置く中高一貫教育校（併設型）の設置方針をとりまとめました。</p>	

役職	教育長	氏名	林 雅則
項目		実施結果	
<p>・高校生の学力向上の推進 全県立高校を対象に生徒の学習意欲・学習状況・授業満足度調査を実施し、結果分析を踏まえて、生徒の学習意欲の向上や教員の授業改善を進めます。さらに、公開授業や授業研究会を充実して、生徒が十分理解できる授業づくりを進めます。</p> <p>また、3年生進学希望対象者の特別講座に加え、「土曜チャレンジセミナー」の対象を1年生から2年生にまで拡充するとともに、大学入試センター試験等の分析を踏まえた問題集等の教材作成・活用や、教員対象の進学指導研修会の実施を通して、生徒の進路希望に応える進学指導の充実を図ります。</p> <p>〔 授業満足度 60% 〕</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>7月に全県立高校で授業・学習状況調査を実施し、調査結果を踏まえ、授業力のある教員や管理職が指導・助言を行い、生徒の理解度を高めることのできる授業とするための改善を進めました。</p> <p>また、進学希望者に対する進路志望別の特別講座に加え、私立大学志望者対象の入試説明会を初めて企画し、12月に嶺北（1回）と嶺南（1回）で開催しました。なお、1・2年生を対象とした「土曜チャレンジセミナー」やセンター試験後の「入試直前冬期セミナー」、「新3年生春期セミナー」といった難関大学対策講座も充実しました。</p> <p>さらに、地元国公立大学や難関大学など6大学に係る進学指導の充実のため、「個別大学入試対策学習アドバイス集」を作成し、教育研究所のウェブページ上に開設した「高校生受験応援サイト」に掲載しました。</p> <p>子どもたちに必要とされる能力や希望する進路実現のために家庭が果たすべき役割について、有識者による「保護者のための教育力セミナー」を開催（3回（嶺北2回、嶺南1回））しました。</p> <p>〔 授業満足度 66% 〕</p>	
<p>・職業教育の充実 社会のニーズや技術の進展に対応するため、企業関係者をアドバイザーとして学校に招き、授業カリキュラムの改善や補助教材の開発等を行います。</p> <p>また、生徒の長期企業研修（10日間）や旋盤等の技術を持つ企業技術者等を学校に招いての実習指導を行うとともに、土木施工管理技士や測量士等の難関資格取得に向けた事前指導を行います。</p> <p>さらに、教員の技術力、授業力を高めるため、県内企業や試験研究機関での短期派遣研修（5日間）を実施します。</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>地元企業の代表等76名に職業教育アドバイザーとして参画いただき、農業、工業、水産、商業の各学科の公開授業（実習）や教科書・カリキュラムについての助言を得ました。</p> <p>また、農業高校や工業高校の2年生計64人が、夏季休業中に企業の製造現場や生産現場で10日間の実習を行いました。なお、農業・工業・水産の各学校で民間の熟練技術者や高度技術者延べ70名が、直接、生徒への実習指導を行ったほか、外部指導者による農業・工業・水産・商業の難関資格取得のため事前指導を行いました。</p> <p>さらに、農業・工業・水産・家庭の専門教科教員8名が、夏季休業中に企業の製造現場や県立大学で5日間の研修を行い、実習等の技術を高め、授業力を向上させました。</p>	

役職	教育長	氏名	林 雅則
項目		実施結果	
<p>・実践的な英語力の向上</p> <p>高校では、ALT等を活用した英語キャンプや土曜スクールを開催するとともに、昨年度の成果を踏まえて、海外語学研修等を実施します。また、NHKと協力して、福井県独自の英語教材を作成します。さらに4つの拠点校を中心とした授業公開や研究会により、指導法の改善などを実施します。</p> <p>中学校では、10校をモデル校として、NHK教材の活用法を研究し、その成果を普及します。また、授業中に英語を聞いたり話したりするなど、実際に英語を使用する機会を充実させます。</p> <p>〔 英語を続けたい生徒（高校3年）46% （平成23年度 44%） 〕</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>英語指導改善拠点校（4校）と協力校（9校）による公開授業・授業研究会（12回）を開催したほか、教員の海外派遣（12名）、英語科教員集中セミナー（3日間）、福井大学語学センターと連携したALT研修（2回）の開催など、教員の指導力向上と授業改善を進めました。</p> <p>全ての県立高校で、ALTとのランチタイムや、洋楽放送を聞く「イングリッシュ・シャワー」を実施したほか、ALTとディスカッションなどを行う「土曜スクール（8校）」、嶺北・嶺南2箇所での英語キャンプ（高校生91名、ALT28名、留学生22名参加）を行いました。さらに米国カリフォルニア州へ生徒（101名）を語学研修に派遣するなど授業外で高校生が英語に触れる機会を充実しました。</p> <p>さらに、英語での表現力をいっそう伸ばすために、「ふるさと福井」を題材にしたオリジナル教材をNHKエデュケーション等と協働し作成しました。また、中学校では、モデル校10校において「基礎英語」等のNHK教材の活用を研究しました。</p> <p>〔 英語を続けたい生徒（高校3年） 51% 〕</p>	
<p>・中国語教育の推進</p> <p>中国語コンテスト等の全国大会参加生徒に対して、中国人留学生等による特別指導等の支援を行うとともに、NHK中国語教材等の整備・活用を進め、中国語学習環境を充実します。</p> <p>また、高校生を中国に派遣し、現地の大学等と協力して語学研修やホームステイを実施し、語学力やコミュニケーション能力の向上を図ります。</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>「漢語橋」世界中高生中国語コンテストや中国語スピーチコンテストなどに出場する生徒への支援を行い、10の大会で入賞者を輩出しました。</p> <p>また、NHKラジオ講座「まいにち中国語」を毎朝10分間のリスニング活動などに活用しました。</p> <p>さらに、高校生5名を中国浙江省に派遣して、中国語コミュニケーション能力を向上させる語学研修を行いました。研修の前後で実施した中国語コミュニケーション能力検定のスコアでは、平均12点の向上が見られました。</p>	
<p>・世界に通じるサイエンスの応用力の育成</p> <p>全国科学オリンピックや「科学の甲子園」への参加生徒に対する実験指導や、教員対象の指導講習会の実施を通して、全国コンテストに参加する生徒数を増やし、中・高校生の理数分野への知的探究心を伸ばします。</p> <p>〔 全国科学オリンピック等の参加者数 140人 （平成23年度 134人） 課題研究発表会の参加者数 150人 （平成23年度 137人） 〕</p>		<p>〔成果等〕 目標を上回って達成しました。</p> <p>中・高校生のサイエンスに対する興味・関心を喚起する「ふくい理数グランプリ」の参加者数の増加とともに、全国科学オリンピックへの参加数が前年度の1.5倍に増加しました。</p> <p>全国物理コンテストに参加した2名や、「第2回科学の甲子園全国大会」に参加する高校に対して実験指導を実施したほか、全国科学オリンピックの実験問題に取り組む教員対象の講習会を実施しました。</p> <p>また、「スーパーサイエンスクラブ」を新たに3校指定し、生徒対象研修会を開催するなど、継続的な研究活動を支援しました。</p> <p>〔 全国科学オリンピック等の参加者数 196人 課題研究発表会の参加者数 161人 〕</p>	

役職	教育長	氏名	林 雅則																									
項目		実施結果																										
<p>◇ 次をめざす教育の充実</p> <p>・教員の授業力の向上</p> <p>学力分析等を踏まえた独自教材や理科の観察・実験の指導方法等の改善を図るための指導書の活用、「算数Webシステム」で使用する单元ごとの評価問題の作成等により、教員の指導力向上・授業改善を推進します。</p> <p>また、個々の教員が作成した優れた学習指導プラン等をWeb上で集約・共有し、教員同士が意見交換を行う「教育情報フォーラム」の活用、公開授業・授業研究会の拡充を促進し、研究活動を充実します。</p> <table border="0" data-bbox="159 869 651 1182"> <tr> <td colspan="2">学習指導プランの登録数</td> </tr> <tr> <td>小学校</td> <td>900件</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>500件</td> </tr> <tr> <td>高校</td> <td>300件</td> </tr> <tr> <td>(平成23年度)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>小学校</td> <td>756件</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>486件</td> </tr> <tr> <td>高校</td> <td>202件</td> </tr> </table>		学習指導プランの登録数		小学校	900件	中学校	500件	高校	300件	(平成23年度)		小学校	756件	中学校	486件	高校	202件	<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>従来にも増して、高校の公開授業・授業研究会を開催（58回）し、教員の授業改善への意欲を高めたり、学習指導プランの「教育情報フォーラム」への掲載数を増やし、多くの指導事例の研究を可能にしました。</p> <p>「学校全体の教育力向上に関する指針」を策定し、校内の授業研究を推進するなどして、自ら学び、工夫する教員を後押しし、教員の指導力向上を図りました。</p> <p>小中学校、高校の節目の部分のつながりを強化するため、小・中・高の教員が、お互いの指導法の研究や指導の系統性を強める「中高授業接続ガイド」を作成し、教育の一貫性を高める対策を進めました。</p> <p>教員の指導力を高める指導資料「理科観察・実験レシピ集」を作成し、観察、実験を充実させることにより、児童の思考力を高めました。</p> <p>10月から算数Webシステムを稼動し、弱点の傾向や分析を容易にして、個別指導や補充学習に役立てることで弱点克服につなげました。</p> <table border="0" data-bbox="683 1048 1437 1189"> <tr> <td>学習指導プランの登録数</td> <td>小学校</td> <td>2,041件</td> </tr> <tr> <td></td> <td>中学校</td> <td>1,009件</td> </tr> <tr> <td></td> <td>高校</td> <td>395件</td> </tr> </table>		学習指導プランの登録数	小学校	2,041件		中学校	1,009件		高校	395件
学習指導プランの登録数																												
小学校	900件																											
中学校	500件																											
高校	300件																											
(平成23年度)																												
小学校	756件																											
中学校	486件																											
高校	202件																											
学習指導プランの登録数	小学校	2,041件																										
	中学校	1,009件																										
	高校	395件																										
<p>・教員の資質能力の向上【共同研究】</p> <p>福井大学教職大学院と協力して、校内研修の指針の策定や、学校づくりの核となるミドルリーダー養成研修などにおける校内研修システムの拡充により、教員の教育力を高めます。</p> <table border="0" data-bbox="148 1659 639 1756"> <tr> <td>教育研究所の訪問研修の件数</td> <td>220件</td> </tr> <tr> <td>(平成23年度)</td> <td>190件</td> </tr> </table>		教育研究所の訪問研修の件数	220件	(平成23年度)	190件	<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>教職生活全体を通して学び続ける教員を育成するため、研修の見直しを行いました。</p> <p>採用前研修は、語学力向上や専門書等の必読書の提示により、教養を高める研修を充実させました。</p> <p>基本研修（初任者、5年・10年経験者）において、校種・世代を越えて、グループ協議を行うクロスセッションを導入し、教員同士の学びあいの気風を促進しました。</p> <p>また、ミドルリーダー養成研修を理論を学ぶだけでなく、研究所員の学校訪問のサポートを得ながら、自校での学校改革や授業改革を1年間通じて行う研修に変更し、実施しました。</p> <table border="0" data-bbox="683 1899 1437 1995"> <tr> <td>教育研究所の訪問研修の件数</td> <td>224件</td> </tr> </table>		教育研究所の訪問研修の件数	224件																			
教育研究所の訪問研修の件数	220件																											
(平成23年度)	190件																											
教育研究所の訪問研修の件数	224件																											

役職	教育長	氏名	林 雅則
項目		実施結果	
<p>・「白川文字学」を活用した漢字教育のレベルアップ</p> <p>すべての小学校で白川文字学を活用した授業を行い、漢字学習の拡大とレベルアップを図るため、専門的に指導できる教員を養成するとともに、先進的な授業の公開や教材の開発を進めます。</p> <p>また、これまで普及活動が行われていない市町で出前講座を積極的に開催し、県内全域への普及を図るとともに、東京都内で漢字講座を開催して、本県独自の白川文字学を広めていきます。</p> <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>漢字学指導者の認定者数 30名</p> <p>県民向け出前講座の開催市町数 17市町</p> <p>(平成23年度 10市町)</p> </div>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>漢字学指導者養成講座（9日間）を開催し、白川文字学をはじめ広く漢字の専門的な知識を学び、今後本県の漢字教育におけるアドバイザーの役割を担う教員を養成するとともに、全ての小学校で漢字学習の授業を実施する中、拠点校（8校）において、公開授業・研究会を実施しました。</p> <p>県内での普及については、全市町（県主催8市町、市町主催13市町）で講座等が行われ、大人から子どもまで3,000人以上の参加が得られました。</p> <p>県外への普及については、東京都内で一般向けの講義や目黒区小学校長会での講義、小学校での漢字教室を開催し、229名の参加がありました。</p> <p>なお、平凡社から出版した『漢字解説本』は8刷を重ね、これまでに4万5千部が発行され、副読本「白川静博士に学ぶ 楽しい漢字学習」も2万1千部が発行されました。</p> <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>漢字学指導者の認定者数 36名</p> <p>県民向け出前講座の開催市町数 17市町</p> </div>	
<p>・新聞を活用した教育活動の推進</p> <p>今年度、NIE全国大会が本県で開催されることに合わせて、県内の全小中学校において新聞を活用した教育活動を推進し、環境教育やふるさと教育等に役立てるとともに、思考力・判断力・表現力の育成を図ります。</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>12月14日に「新聞を活用した教育研修会」を実施し、県内すべての小中学校から教員約280名が、有識者による講演や県内NIE実践教員による記事を使ったカルタや俳句づくりなどのワークショップに参加しました。</p> <p>また、7月30日・31日に開催された第17回NIE全国大会福井大会では、県内外の教育関係者・新聞関係者ら過去最多の約1800人の参加がありました。</p>	
<p>2 新しい方向をひらく農林水産業</p> <p>◇ 食卓に「福井の食」（地産地消、地産外商）</p> <p>・毎日おいしい地場産給食の実現【部局連携】</p> <p>県内の栄養教諭が協力して、地場産物を活用した、おいしい学校給食の献立等について研究を進めるとともに、開発した献立をレシピ集にまとめ、「ふくい味の週間」などで県内外に発信します。</p> <p>また、子どもたちが地域の特産物や食文化等について学び、他の地域と紹介し合うことにより、食への興味関心を高めます。</p> <p>給食用食材には地場産物を優先的に使用し、県外の食材を使用する場合には産地情報を確認し、安全・安心な学校給食を提供します。</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>県内の栄養教諭が研究・開発した献立や、8月の「学校給食調理コンテスト」の献立等をレシピ集にまとめ、地場産物を活用したおいしい給食を県内外に発信しました。</p> <p>11月17日に、ふくい味の週間で「学校給食レストラン」を開設するとともに、1月にも県庁食堂において、給食で人気の高い地場産物を活用したメニューを提供し、好評を得ました。</p> <p>また、嶺北、嶺南の2地域の児童がお互いの特産物や郷土料理の紹介などの交流学习を行い、食への興味関心を高めました。</p> <p>なお、給食用食材には地場産物を優先的に使用し、県外の食材を使用する場合には産地情報を確認し、安全・安心な学校給食を提供しました。</p>	

役職	教育長	氏名	林 雅則
項目		実施結果	
<p>3 国体めざす県民スポーツ、生活のなかに楽しむ県民文化</p> <p>◇ 飛躍する福井のスポーツ</p> <p>・世界をめざすアスリートの養成</p> <p>世界で活躍するアスリートにつながる人材の育成や子どもから高齢者までの誰もが、生涯にわたりスポーツに親しむことができる環境づくりなど、本県の実情に即した福井県スポーツ推進基本計画（仮称）を作成します。</p> <p>また、「福井県競技力向上対策本部」が、競技団体への適切な指導・助言を行い、将来活躍が期待される子どもたちを継続して育成していく一貫指導体制を構築するとともに、国体成績のランクアップを目指した合宿や遠征試合などへの支援を拡充します。</p> <p>〔 国体総合成績 20位台 〕 〔 平成23年度 30位 〕</p>		<p>〔成果等〕 引き続き実施します。</p> <p>スポーツ推進審議会（本会3回、分科会4回）を開催し、福井国体を契機に、未来を担う子どもたちから障害者・高齢者まで、県民誰もがスポーツに親しめる環境を整備していくため、今後10年間のスポーツ推進の方向性を示しながら、学校体育やトップアスリートの育成など、国体までの5年間の施策を盛り込んだ福井県スポーツ推進計画の中間とりまとめを作成しました。</p> <p>また、「福井県競技力向上対策本部」において、ジュニアから成年までの一貫した選手育成・強化を進めるため、「チームふくい」強化指定選手として中学・高校生634名を認定しました。</p> <p>さらに、指導者養成のため中央講習会への参加支援や、国体成績のランクアップを目指した合宿・遠征試合などへの支援ほか、競技力を高めるためのボートや体操器具、自転車等の競技備品の整備などへの支援を行いました。</p> <p>さらに、新年度に向けて、学校単位での強化拠点を構築するための重点強化校（中学校 4校、高校 18校）、強化推進校（中学校 36校、高校 27校）の指定を行うとともに、中央からの優秀な指導者配置に関する事前情報収集を進めました。</p> <p>これらの強化対策の結果、ぎふ清流国体では、テニスやボート、自転車などで好成績が得られました。</p> <p>〔 国体総合成績 24位 〕</p>	
<p>・県有体育施設の整備</p> <p>国体の開催と将来にわたる利活用を考慮し、ホッケー場の人工芝の張替、クレー射撃場改修工事の実施設計等、久々子湖漕艇場・ボートハウス整備の基本設計等を実施します。</p> <p>また、福井運動公園について具体的な整備計画を作成するなど県有施設の着実な改修等を進めます。</p>		<p>〔成果等〕 引き続き実施します。</p> <p>県有施設の整備にあたっては、国体の開催と将来の利活用を考慮し、ホッケー場の人工芝の張替、クレー射撃場改修工事の実施設計等を行いました。</p> <p>また、福井運動公園については、具体的な整備計画を作成し、基本設計に着手しました。</p> <p>なお、久々子湖漕艇場・ボートハウスについては、美浜町によるボートハウス整備予定地の調整終了後、基本設計に着手し、国体の開催や利活用に支障のないよう整備を進めます。</p>	
<p>・平成24年度全国高等学校総合体育大会の開催</p> <p>新潟県を中心に北信越5県で開催するインターハイについて、本県では、県高等学校体育連盟、競技開催市町とともに万全の準備を整え、ホッケーを越前町で、バドミントンを福井市と永平寺町で、体操・新体操を鯖江市で、なぎなたを福井市で開催します。</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>平成24年度本県で開催されたインターハイについては、ホッケー816名、バドミントン1,196名、体操892名、新体操728名、なぎなた488名の選手、監督・コーチの参加者があり、ホッケー男子で丹生高校が、体操男子で鯖江高校が3位の成績を残しました。</p>	

役職	教育長	氏名	林 雅則
項目		実施結果	
<p>◇ 生活に福井の文化 ・国宝・重要文化財、県文化財の早期指定の推進【部局連携】</p> <p>国指定の少ない無形民俗文化財の分野において、指定に向けた「祭り・行事」の悉皆調査を実施します。また、名勝の分野では、これまでの悉皆調査の結果を踏まえ、国・県指定となる可能性の高い名勝庭園を選定しての測量調査を実施します。</p> <p>併せて、多くの方が文化財に親しんでもらえるよう、文化財体験月間（10～11月）において、特別公開を実施するなど、指定文化財の公開拡大を図ります。</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>国指定に向け、無形民俗分野においては、「祭り・行事」調査の悉皆調査を実施し、25年度の実地調査のための基礎資料を作成しました。また、名勝分野においては、三田村氏庭園（越前市）の特定調査を実施し、国への報告書を作成しました。県指定に向けては、田村氏庭園（大野市）の測量調査を実施しました。</p> <p>文化財については、平成19年度以降実施してきた庭園等文化財の悉皆調査や白山信仰関係の調査の中から、価値の高いものについて、文化庁調査官の招聘（11月）や県文化財保護審議員の現地調査（11月）などを経て、今年度新たに8件の文化財を指定しました。</p> <p>文化財の公開拡大については、10～11月の「文化財体験月間」において、新たに県指定された永平寺歴代祖師像などの特別公開を増やすなどにより、約72,000人（昨年度約55,000人）の参加を得ました。</p>	
<p>〔国宝・重要文化財・県指定文化財の新規指定件数 8件 (平成15年～22年度の平均 7件/年)〕</p>		<p>〔国宝・重要文化財・県指定文化財の新規指定件数 8件〕</p>	
<p>・「福井ふるさと文学館（仮称）」の基本計画策定および資料収集</p> <p>福井にゆかりのある作家の作品や資料等を通して、県民がより深く文学に親しめるよう、県立図書館の中に「福井ふるさと文学館（仮称）」を整備するための基本計画を策定します。</p> <p>また、文学館の展示にふさわしい図書や資料の収集を行います。</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>福井ふるさと文学館（仮称）基本計画検討委員会（4回開催）において、文学館の機能、展示構成、教育普及等について検討し、基本計画を策定しました。</p> <p>ふくいゆかりの作家本人や遺族関係者、県内文学関係者を訪問し、文学館整備への協力関係作りを進めました。</p> <p>また、文学館で展示する資料については、津村節子氏からの寄贈品をはじめ、福井ゆかり作家の直筆原稿等の貴重な資料約4,600点を収集しました。</p>	
<p>・こども歴史文化館企画展示等の充実</p> <p>本県ゆかりの先人や達人について広く知ってもらえるよう、特に平日の来館者を増加させるため、学校・学級単位での漢字教室・科学教室などの開催や、小・中学校などへのPR強化を図ります。</p> <p>併せて、新たな先人・達人の発掘を進め、その成果を企画展やこれと連動したワークショップなどを通して、紹介します。</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>常設展示について、新たに石塚左玄といった先人、中野希望、畑和也といった子どもが憧れるスポーツや料理の分野の人物を追加したほか、展示を楽しみながら理解する新たな仕組みとして、「サイコロタイムトラベラー」を導入しました。</p> <p>特集展示では、特に松旭斎天一について夏休み企画や企画展として、日本最古の作品・ベルギー講演の写真や、東京・文楽座興業のビラなどの貴重資料を初公開しました。</p> <p>また、PR強化として、団体受入れ時の科学おもちゃ教室（51回）や、土日・祝祭日でのイベント（マジックショー・眼鏡展等 172回）の開催、学校への出前講座（2回）を行うとともに、全小中学校に校外学習や貸出キットの案内を行いました。</p>	
<p>〔こども歴史文化館の来館者数 34,000人 (平成23年度 33,117人) チャレンジ目標 35,000人〕</p>		<p>〔こども歴史文化館の来館者数 36,364人〕</p>	

役職	教育長	氏名	林 雅則
項目		実施結果	
<p>4 すぐれた医療と支えあいの福祉 ◇ 「こころとからだの健康」づくり ・子どもの目と歯の健康づくりの推進 【部局連携】</p> <p>子どもの近視予防のため、すべての小中学校で、5月から目の健康を守る3か条（姿勢を正しくする、目を休める、規則正しい生活をする）を教室に掲示して啓発を進めるとともに、遠くを眺めて目を休める「目のリフレッシュタイム」を実施します。</p> <p>子どものむし歯予防のため、すべての小学校で低学年対象の歯みがき教室を実施し、正しい歯みがき習慣の定着を図ります。</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>子どもの目の健康プロジェクトとして、すべての小中学校で、5月から目の健康を守る3か条を教室に掲示し、校内放送等による呼びかけを行い、児童生徒の意識を高めるとともに、「目のリフレッシュタイム」を実施し、目を休める時間を設けるとともに、目の愛護デーに合わせ、目の健康に関する保健指導を行いました。</p> <p>子どもの歯の健康プロジェクトとして、すべての小学校の1、2年生を対象に歯垢染色剤を用いて歯みがき教室を実施するとともに、10月には、その保護者にリーフレットを配布し、正しい歯みがき習慣の定着を図りました。</p>	
<p>〔むし歯のない小学生の割合 33% （平成23年度 30.8%）〕</p>		<p>〔むし歯のない小学生の割合 33.8%〕</p>	
<p>5 若者のチャレンジと女性の活躍を応援 ◇ 子どもがたくさん、家族を応援 ・「放課後子どもクラブ」への支援</p> <p>地域の実情に応じて「放課後子どもクラブ」を実施し、子どもの安全・安心で健やかな活動場所を確保します。</p> <p>特に、6年生までの希望する児童すべての受け入れができるよう市町を強力に支援します。</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>地域の実情に応じて、子どもたちが地域のボランティア等の指導のもと、文化活動や読書・宿題等を行うことができるよう、小学校や公民館などを活用して、市町が行う県内382箇所の「放課後子どもクラブ」運営を支援しました。</p> <p>さらに、4年生以上の児童受け入れを行う放課後児童クラブへの追加支援などにより、児童クラブは前年度から4箇所増え、217箇所となり、約7,200人の児童が利用登録しました。（放課後子ども教室は前年と同じ165箇所）</p>	
<p>〔6年生まで受け入れる小学校区数 190校区 （平成23年度 188校区 （93.1%）〕</p>		<p>〔6年生まで受け入れる小学校区数 192校区 ※県下の小学校区数 200校区〕</p>	

役職	教育長	氏名	林 雅則
項目		実施結果	
<p>6 日本一の安全・安心（治安向上から治安実感へ）</p> <p>◇ 地震・異常気象・災害などに迅速対応</p> <p>・防災教育の推進</p> <p>学校における防災教育推進の指針として、管理編（避難訓練用）と教育編（授業用）からなる手引き書を作成します。</p> <p>また、自然災害に際して子どもたちが自ら危険を回避する判断力を育てるための訓練や教職員の防災に関する知識を深めるための防災教室講習会を開催します。</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>県内外の有識者および学校関係者を交えた防災教育検討会議（3回開催）において、東日本大震災を踏まえ、避難経路・避難場所の複数確保や引き渡し・待機の判断基準などを議論し、子どもたちが自ら身を守る力を育むことを目指した防災教育の手引き書を作成しました。</p> <p>また、県内の学校22校に延べ25回、防災の専門家（防災士等）を学校防災アドバイザーとして派遣し、避難訓練の実施方法や防災体制の整備等について助言を行いました。</p> <p>さらに教職員の防災に関する知識を深めるため、7月12日に全ての公立学校の管理職を対象とした防災教室講習会を開催しました。</p> <p>11月9日には、福井・坂井両市で大規模地震と津波を想定して行われた県総合防災訓練に9つの小中校・幼稚園が参加し、このうち海に近い4校は、津波に備え、実際に高台に避難する訓練を行いました。</p>	
<p>・子どもを守る耐震化の促進</p> <p>児童生徒の学習の場、地域住民の応急避難場所となる小・中学校施設や県立学校施設の耐震化を促進し、災害時の安全・安心を確保します。</p> <p>〔耐震化率〕</p> <p>小・中学校施設（24年度末） 84%</p> <p>（平成23年度末 81.4%）</p> <p>県立学校施設（24年度末） 90%</p> <p>（平成23年度末 87.2%）</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>小・中学校施設の耐震化については、県独自の補助制度による耐震補強工事に係る市町の負担軽減のほか、耐震化促進の市町への働きかけを強め、国の補正予算なども利用した耐震補強工事を進めました。（33棟）</p> <p>県立学校施設についても、計画的な耐震化を進めました。（体育館や管理棟など10棟）</p> <p>〔耐震化率〕</p> <p>小・中学校施設 84.7%</p> <p>県立学校施設 90.7%</p>	